

メディア依存から抜け出したいと思っている君へ

もしかするともうメディア依存になっているかも

2019.02.27

No.54

校長 渡邊 幸二

今日、S.D先生から、メディアコントロールに関するお話をいただきました。とてもひきつけられるお話で、あっと言う間に5時間目が過ぎてしまいました。

6年生の子どもたちはどんなことを感じたのでしょうか。そして、実際に自分で少しでもコントロールできるようになってくれるでしょうか。あの子たちの人生が輝かしいものになってほしい反面、どうかあそこに登場した「げいむくん」やこわい大人などの世界に足を踏み入れてほしくない！と願うばかりでした。



メディア依存から抜け出したいと思っている君へ

先月、学校保健委員会が開催され、各学年のメディアに対する取り組みを発表してもらい、互いに学び合いました。6年生の実践では、川島隆太先生の取り組みを学年だよりなどで紹介しながら実践を進めてくださったようで、大変勉強になりました。学年委員長のS.Kさんから、そのシリーズの最終号への原稿依頼を受けましたので、以下のような子どもたちへの呼びかけを書かせていただきました。



メディアに害があるのは百も承知。しかし、それを止められない自分がいる…それはなぜか？

ゲームにしても、動画にしても、さまざまなSNSにしても、やっている人が止められないように設定してあるから。だからネットゲ廃人や依存症に陥る。

では、中毒になってしまうような、そんなメディアとどう付き合えばいいのか…

うまく付き合うには「理性」が必要。別の言葉で言えば「想像する」「考える」など、クリエイティブな自分であること。メディアに溺れている人、つまり思考停止状態、または自分を客観視できない幼子はそんな素敵な未来の自分を想像せず、ただただ快樂に溺れている「残念な人」になっていないか。

私が尊敬する富田勝氏（慶應大先端生命科学研究所長）に訊いてみた…「メディアに溺れる子どもがいるのですが…。」答えは「その世界で一番になれるくらいやったらいいんじゃない！」確かに富田氏は、インベーダーゲームが大流行した大

学時代、自分でゲームを作って売り込んだという、そんなものすごいレベルでのめり込んでいる。ただただゲーム等にはまって、将来はメディアに関する仕事に簡単になれると思っている甘ちゃんとはわけが違う。悔しかったら e スポーツのてっぺんでもめざしたら良い。

ゲームはやっても良い。動画も見ても良い。でも、まだ自立できていないあなた方がやるべきことは、“時間を決めてやる”という枠組みを設定し、それを忠実に守ること。それが自己管理への第一歩。時間やお金や心をコントロールできない未熟者は、メディアに手を出してはいけない。もし君がメディアに自由に触れたかったら、自己管理できる大人…つまり自立した人になるしかない。(我々親も、自立できていない子どもに、メディアに接する自由を与えてはいけない)

もう一度、メディアに関するこれまでの学年だよりを熟読することをお薦めします。

ちなみに、「じりつ(自立・自律)」というものは、大人でもなかなかできない。厳密に言えば、ある面ではできてもある面ではできない。例えば、「タバコは体に悪い」「酒の飲み過ぎはアル中になる恐れがある」と言われているが、害があるのは百も承知なのにできない大人もけっこういる。もし本気で止めるのであれば、「子どもが生まれたので」とか「医者に止めろと言われたので」というようなきっかけや、止めるための枠組み(仕組み・システム)があった方が絶対に止めやすい。メディアも同じ。子どもの養育者である大人がその枠組みを入れてあげなければ、そう簡単に子ども自らが止められるものではないのだ。

と、かなり厳しいことを書きましたが、結局は「どうしたいのか」「どんな人になりたいのか」という議論無しに子どもに枠組みを押し付けても、互いに苦痛を背負い込むようなものだと思います。親子でよく話し合い、コーチング(勇気付け)の手法で、子ども自らが^{セルフコントロール}自己管理できるようにすることが一番だと思います。

今日のD先生のお話は、3～5年生の子どもたちに聞いてもらってもわかるのではないかと思います。時間を見つけてぜひビデオを見せてあげてください。

